



川口成彦 | フォルテピアノ

1989年に岩手県盛岡市で生まれ、横浜で育つ。第1回ショパン国際ピリオド楽器コンクール第2位、ブルージュ国際古楽コンクール最高位。フィレンツェ五月音楽祭や「ショパンと彼のヨーロッパ」音楽祭(ワルシャワ)をはじめ欧州の音楽祭にも出演を重ねる。協奏曲では18世紀オーケストラ、{oh!} Orkiestra Historycznaなどと共演。2018年にはロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団のメンバーと共に室内楽形式によるピアノ協奏曲のリサイタルをオランダにて開催。またモダンピアノでは2016年にアメリカにて世界的オーボエ奏者ニコラス・ダニエルと共にブーランクの『オーボエ、バソーンとピアノのための三重奏曲』の最終稿の世界初演を行っている。東京藝術大学/アムステルダム音楽院の古楽科修士課程修了。フォルテピアノを小倉貴久子、リチャード・エガーの各氏に師事。第46回日本ショパン協会賞受賞。第31回日本製鉄音楽賞フレッシュアーティスト賞受賞。CDは『ゴヤの生きたスペインより』(MUSIS, レコード芸術/朝日新聞特選盤)などを発表している。



酒井淳 | チェロ

名古屋生まれのガンバ奏者・チェロ奏者・指揮者。レ・タラン・リリケヤル・コンセル・ダストレなどの古楽アンサンブルの演奏低音奏者として、数々の演奏会とCD録音を手掛ける。室内楽に力を注いでおり、シャット・ファスト(ガンバ・コンソート)やカンピニ弦楽四重奏団の創立者として活躍。またソロでは、フランス・ヴィオール音楽のスペシャリストとして高く評価されている。近年フランスのディジョンやリールのオペラ座、オペラ・コミック座にてシャルパンティエやモーツァルトなどを指揮し、成功を収めている。



徳永真一郎 | ギター

徳島県出身。9歳からギターを学び、2007年に渡仏。2016年パリ国立高等音楽院修士課程を満場一致の首席で卒業。ギターを川竹道夫、アレクシス・ムズラキス、ローラン・ディアンズ、ジュディカエル・ペロワ各氏に、古楽・リュートを今村泰典氏に師事。また、キジアーナ音楽院のオスカ・ギリア氏のクラスにて最優秀ディプロマを取得。2010年オルシュティン国際ギターコンクール第1位及びグランプリ。2018年ヴェリア国際ギターコンクールのコンチェルト部門にて第2位入賞。2018年7月発売のアルバム『テリユール』は文化庁芸術優秀賞を受賞。



ピリオド楽器で奏でる
弦と弦の親密な会話

DIALOGUES
弦の対話

川口成彦

フォルテピアノリサイタルシリーズ2022



プレイエル
(1843年)



©Tara Taradate



酒井淳



徳永真一郎



(伝)
マテウス・シュタイン
(1820年頃)

チケット予約

フェニーチェ堺
WEB [フェニーチェ堺 検索 https://www.fenice-sacay.jp](https://www.fenice-sacay.jp)

TEL 堺市文化振興財団チケットセンター 0570-08-0089
※一部携帯・CATV接続電話・IP電話からはご利用いただけません。

窓口 フェニーチェ堺チケット窓口 (9:00~20:00)
[窓口販売は一般発売日の翌月曜日より、残席がある場合のみ]
※堺市梅文化会館・東文化会館・アルテベル(美原文化会館)窓口でも購入できます。

プレイガイド
チケットぴあ <https://t.pia.jp/>
[Pコード 222-034 (第1回)・222-036 (第2回)]
e+(イープラス) <https://eplus.jp>

公演に関するお問い合わせ

フェニーチェ堺 072-223-1000

Sakai Performing Arts Center
(9:00~20:00、休館日:第1・3月曜および年末年始)
※この番号では、チケットのご予約は承っておりません。



アクセス
フェニーチェ堺(堺市民芸術文化ホール)
〒590-0061 大阪府堺市堺区翁橋町2-1-1
南海高野線 なんば~堺東 約10分/堺東駅から徒歩8分

1

第1回 チェロとの対話

2022 12/17 [土]

15:00開演(14:30開場)

ゲスト
酒井淳 (チェロ)
シューマン:子供の情景 op.15
ショパン:チェロソナタ op.65 ほか
[使用楽器] プレイエル

フェニーチェ堺 小ホール

全席指定(税込) 各4,000円 ※未就学児入場不可 ※車いす席は堺市文化振興財団チケットセンターでご予約ください。 一般発売日 第1回:8月6日(土)/第2回:9月10日(土)

チケット予約 堺市文化振興財団チケットセンター 0570-08-0089 またはフェニーチェ堺のホームページ、各プレイガイド ほか
お問い合わせ フェニーチェ堺 072-223-1000 (9:00~20:00 第1・3月曜休館 祝日の場合は開館) ※この番号では、チケットのご予約は承っておりません。

主催:フェニーチェ堺 協力:フォルテピアノ/ヤマモトコレクション/タカギクラヴィア
助成:文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)|独立行政法人日本芸術文化振興会
※やむを得ない事情により曲目・公演内容等が変更となる場合があります。
※フェニーチェ堺は新型コロナウイルス感染拡大状況に応じた「感染拡大防止対策」を実施しています。

2

第2回 ギターとの対話

2023 1/21 [土]

15:00開演(14:30開場)

ゲスト
徳永真一郎 (クラシックギター)
フンメル:ピアノとギターのためのポプリ op.53
ディアベリ:ピアノとギターのための華麗なる大ソナタ op.102 ほか
[使用楽器] (伝)マテウス・シュタイン

最新情報・チケット購入は
公演ページへ



MESSAGE

フォルテピアノ、すなわち18世紀および19世紀の古いピアノに初めて触れた時に、ピアノという楽器は「鍵盤楽器」である以前にハンマーを弦で叩いて音を出す「弦楽器」なんだということ、より一層鮮明に感じました。それ以来私は弦楽器奏者としてピアノに向き合うようになりました。

今年のリサイタルシリーズのテーマは「DIALOGUES 弦の対話」です。チェロの酒井淳さん、ギターの徳永真一郎さんをお招きして、弦楽器同士の親密な会話を繰り広げたいと思います。ゲストのお二人も僕と同じように当時のスタイルの楽器を使用します。ピリオド楽器での「弦の対話」をどうぞごゆっくりお楽しみ下さい！

— 川口成彦



酒井淳

©Jean-Baptiste Millot



徳永真一郎

©Tohru Yuasa

一部の曲では
ファツィオリF308
(モダンピアノ)
を使用



[フェニーチェ堺所有]

1

第1回 チェロとの対話

2022 12/17 [土] 15:00開演(14:30開場)

ゲスト 酒井淳 (チェロ)

ショパンが出版した存命中最後の作品であるチェロソナタを古楽器でお楽しみ頂くのをメインとしています。ゲストはヨーロッパの古楽シーンでも第一線で活躍する名手酒井淳さんです。ショパンはチェロを非常に愛しており、ピアノソナタでもチェロに影響を受けている《エチュード op.25-6》で後半プログラムを始めます。前半プログラムではシューマンの作品をお楽しみ頂きます。ショパンと同じ年の作曲家ですが、同じプレイエルでも作曲家が変わると色合いが変わりますのでとても楽しいです。シューマンによる前半プログラムのピアノソナタでは《子供の情景》を演奏しますが、「トロイメライ」などの有名曲があるので一つの聴きどころです。前半メインはやはりチェロとの共演によるシューマンのチェロ作品です。ピアノソナタ、チェロ作品を通じて同い年の2人の天才作曲家をたっぷりお楽しみ下さい。(川口成彦)

シューマン：

- アラベスク op.18
- 子供の情景 op.15
- アダージョとアレグロ op.70
- 3つのロマンス op.94

ショパン：

- エチュード op.25-6
- スケルツォ 第2番 op.31
- チェロソナタ op.65



使用楽器

プレイエル | 1843年製 [タカギクラヴィア所有]

マホガニーケース / 製造番号: No.10456 / 長さ: 205cm / 2018年度ショパン国際ピリオド楽器コンクール認定楽器
音域はC1からG7まで、80鍵(6オクターブと5度) / ペダル2本(左よりウナコルダ、ダンパー)

フォルテピアノは構造的に強度不足で華奢なため、コンサートコンディションで現存する楽器は少ないが、このNo.10456はほぼオリジナル状態を保つ貴重な楽器である。

1807年にフランス・パリで創業されたプレイエル社。古典的なウィーン式を改良したシングルアクションは構造が単純で、鍵盤の先に弦を叩くハンマーを直接押し上げる部品が取り付けられているだけで、弦楽器のように指先の繊細な表現を伝えやすい。また鍵盤が軽く柔らかい音色を持ち、ピアノシモでの音色の変化が美しい。(高木裕)

2

第2回 ギターとの対話

2023 1/21 [土] 15:00開演(14:30開場)

ゲスト 徳永真一郎 (クラシックギター)

前半プログラムは19世紀初頭のウィーン式の楽器を主役にしながらドイツ、オーストリアの作曲家の作品を取り上げます。ギターとピアノによるアンサンブル作品は19世紀前半には多く書かれましたが、今日なかなか演奏されることが少ないのでその魅力をお伝え出来たらと思います。ピアノソナタではシューベルトとベートーヴェンの作品を演奏します。後半プログラムはファツィオリのピアノと共にラテン作曲家祭りです。ボンセのギターとチェンバロのための作品は今回はモダンピアノと共に演奏してみます。スペインの作曲家によるピアノとギターのそれぞれの独奏曲もどうぞお楽しみ下さい。(川口成彦)

シューベルト：アダージョ D612

ベートーヴェン：幻想曲 op.77

フンメル：ピアノとギターのためのポプリ op.53

ディアベリ：ピアノとギターのための華麗なる大ソナタ op.102

アルベニス：グラナダ、セビーリャ、アストゥリアス、
キューバ(《スペイン組曲 op.47》より)

タレガ：アルハンブラの思い出

カステルヌオーヴォ＝テデスコ：幻想曲 op.145

ボンセ：ギターとチェンバロのための前奏曲
ギターとチェンバロのためのソナタ



使用楽器

(伝)マテウス・シュタイン | 1820年頃 [フォルテピアノ ヤマモトコレクション所有]

長さ: 228cm / 音域: FF-g4 6オクターブ2度 / メカニック: ウィーン式 打弦機構
ペダル4本(左より、ウナコルダ、ファゴット、モデラート、ダンパー)

マテウス・シュタインはモーツァルトが絶賛したヨハン・アンドレアス・シュタインの息子です。この美しい音色を持つフォルテピアノは天才的な父親の技を継いでいると言えるでしょう。この(伝)マテウス・シュタインは典型的なウィーンナートーンの響きをもっているフォルテピアノと言えます。それは、弦の振動が止まってもオルゴールの箱のように音の余韻が残る色彩感、透明感、ピアノの理想とする肉声に近い柔らかく自然な感じの響きです。シューベルトはウィーン以外のピアノに触れる機会がなく彼の音楽は全てウィーンナートーンに包み込まれています。(山本宣夫)

Matthäus Stein